



瓊浦高等学校
学校通信
第 18 号

平成26年2月28日発行
電話 095-826-1261
FAX 095-820-5245



「冬来たりなば春遠からじ」

副校長 岩永 義宣

テレビの画面にジャワ（インドネシア）からもたらされた日本のザボン発祥の地とされる西山神社の寒緋桜（市の天然記念物）に目白が止まり、さえずっている映像が映し出されています。春はもうそこまで来ています。

思えばこれまで、天変地異をはじめ、大小の差こそあれ、悲喜こもごものいろんな出来事がありました。

「冬来たりなば、春遠からじ」のたとえのように、つらい時期を乗り越えれば、良い時期が来るように、季節の春は人間世界の私たちにも必ず巡ってくるという自然の摂理をしみじみと感じざるを得ません。

ロシアのソチの地で冬季オリンピックが開催され、日本選手の活躍に一喜一憂しました。しかし、その晴れの舞台で歓を得るまでには、それまでに数多くの艱難辛苦を経験し、たゆみない努力の積み重ねがあったればこそだと思われまます。

人によって、それぞれの「人生の季節」は違っていても、その折々を己を信じ、ひたむきに生きていくと、必ず人生の春は訪れてきます。

春まだ浅い二月、梅は百花に先がけて寒気の中、高貴な香りを漂わせて、清雅に咲きます。梅はいちはやく春の訪れを告げるため、別名で春告草とも呼ばれています。

「梅に鶯」という言葉があります。これは梅に鶯が来るという意味ではなく、二つのものが調和したり、取り合わせの良い例として、日本人の早春の喜ばしい風情として言われてきたものです。

「桃栗三年、柿八年、梅はすいすい十六年」という言葉もよく聞きます。これは、物事は簡単にうまくいくものではなく、一人前になるには地道な努力と忍耐が必要だということを示しているのです。

今日も二羽の目白が、つくばい（庭のお手水鉢）の水を飲み、傍らの梅の花の蜜を吸っています。その様に心が癒されます。

保護者の皆様、多忙な日々をお過ごしのことと推察いたしますが、お子様と一緒に春の到来を待たれたらいかがでしょう。

3 学年主任より

「 新たな 一 歩 」

3 学年主任 山口 敦

ご卒業おめでとうございます。

241名の生徒諸君が、3カ年の課程を無事修了し、瓊浦高等学校65回生として立派に巣立っていく日を迎えました。保護者の皆様も感慨ひとしおではないでしょうか。この日を迎えるまでに、どのご家庭におかれましても、多かれ少なかれご苦労がおりになったのではないかと推察いたします。

いつの時代も若者は夢を抱き、悩み、そしてまた歩き始めました。先人たちの残した軌跡は虹となり、道標となりました。また、人々は違いを認め、助け合い、思いやりの心を育ててきました。今日を境に、新たなスタートを切ります。瓊浦高等学校での出会いと感動を、夢と希望にあふれる未来への架け橋とし、勇気と自信を持って、素晴らしい人生を歩んでほしいと思います。

この241名は、明日からは瓊浦高等学校の卒業生となります。あとに続く多くの後輩が、人生の先輩として慕い、憧れ、目標とする存在となります。いつもそのことを胸に刻み、母校は瓊浦高等学校であるという「誇り」を忘れず、新たな一歩を踏み出してほしいと願っています。

保護者の皆様におかれましては、本校の教育活動に関し、ご理解、ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。今後とも「瓊浦Family」の一員として、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

卒業式のお知らせ

いよいよ明日、3月1日に瓊浦高等学校第65回卒業証書授与式が行われます。今年度の卒業生は普通科124名、情報ビジネス科42名、機械科75名の計241名です。卒業生にとっては、長いようで短かった3年間であったと思います。こうして無事に卒業を迎えることができ、教職員一同本当に嬉しく思っています。

3年生の保護者の皆様におかれまして卒業式は、お子様方の晴れ舞台となります。数多くのご参加をいただければ幸いです。開式は10時を予定しております。式場には9時40分までにご入場いただきますようお願いいたします。なお、校内に駐車場の余地がございませんので、自家用車でのご来校はご遠慮ください。また、当日はマイクロバスの運行を予定しています。

《 主な行事 》 3月

1日(土)	卒業証書授与式
3日(月)	振替休日(卒業式)
4日(火)	凧製作週間(～14日)
5日(水)	陶芸見学会【機②】
7日(金)	強歩大会
11日(火)	就職模擬試験② 進路ガイダンス②
12日(水)	美術鑑賞
14日(金)	写真撮影 強歩大会予備日
17日(月)	写真撮影 教科書販売
18日(火)	凧あげ大会 終了式
20日(木)	二次入試
21日(金)	学級編制試験【新①】 制服採寸【新①】

【修学旅行】

2月10日(月)から14日(金)まで、第2学年の修学旅行が行われました。初日、8時40分に県庁裏に集合し、福岡空港経由で羽田空港に入り、東京都内車窓見学を行いながら、新潟県上越のスキー場を目指しました。日本一長い上越トンネルを抜けると、一面の雪景色に生徒たちも感動していました。2日目からスキー研修が始まり、初めてのスキーやスノーボードに苦戦しながらも、2日間の研修でほとんどの生徒が目覚ましく上達し、まだまだ滑り足りないようでした。4日目の東京都内自主研修では、各班入念に計画した予定表に従って、都会の空気を存分に味わっていたようです。最終日は、雪により帰りの便が心配されましたが、予定より2時間早くディズニーランドを切り上げ、予定通りの飛行機で全員無事に帰ってくることができました。このように楽しい修学旅行を終えることができたのも、生徒一人ひとりがルールを守り、それぞれ行動してくれた成果だと思いません。今回学習したことを今後の学校生活や人生に活かして欲しいと思います。



【情報ビジネス科 課題研究発表会】

今年度は、①全商検定1級4種目合格者の報告、②生徒が制作したマルチメディア作品上映、③輝く私学支援事業として取り組んだ「長崎ハタ」、④お菓子作り挑戦した「商品開発」、⑤12月に実施され、8名が参加した東アジアキャリアアップ友好事業・上海研修報告という5つのテーマで、情報ビジネス科課題研究発表会が行われました。

今回は、蛍茶屋の洋菓子店「サンレモ」

2代目店主の広瀬様にご出席いただき、商品開発について「味だけで売れる訳ではない。美味しい商品が売れる商品に変えていかないと商売にはならない。」等、今後の学習課題となる助言をいただきました。

次年度の「商品化の実現」に向けて研究を重ね、科の活性化につなげていきたいと思いをします。



【卒業証書授与式 表彰者一覧】

- 瓊浦学園賞
 - ・答辞 野口 智秀 (普3 A)
 - ・証書総代 有馬 大介 (普3 B)
 - 峰 亮太 (情3 A)
 - 山口 慎之介 (機3 A)
 - 校長賞
 - 田川 将大 (普3 A)
 - 田中 佑弥 (情3 A)
 - 田代 恭一 (機3 B)
 - 長崎県教育委員会表彰
 - 有村 聖也 (普3 A)
 - 私学賞
 - 岸本 優三 (普3 B)
 - 高体連卒業生顕彰
 - 小串 慎一郎 (普3 A)
 - 産業教育振興賞
 - 崎戸 航太 (情3 A)
 - 横川 祐紀 (機3 B)
 - 商業教育成績優秀者表彰
 - 前田 絵梨花 (情3 A)
 - 記念品贈呈
 - 外輪 元気 (普3 D)
 - 記念品受領
 - 長野 亮太 (機3 A)
 - 3ヵ年皆勤賞
 - 総代 田嶋 佑亮 (普3 C)
- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 有村 聖也 | 石川 翔大 | 朝倉 裕貴 | 大塚 猛 |
| 石崎 諒 | 上別府 衛 | 北川 拓海 | 北村 龍虎 |
| 川原 千希 | 小串 慎一郎 | 熊谷 航輝 | 栗木 律皇 |
| 田川 将大 | 堀脇 陸 | 外輪 元気 | 染原 圭志 |
| 安永 大樹 | 渡辺 峻斗 | 中村 道脇 | 福島 雄二 |
| | (以上 普3 A) | | (以上 普3 D) |
| 有馬 大介 | 小島 仁希 | 田中 佑弥 | 中村 雅也 |
| 小林 拓磨 | 瀬川 伸一 | 椎山 朋也 | 濱口 雄也 |
| 田島 直稀 | 谷村 奨平 | | (以上 情3 A) |
| | (以上 普3 B) | 泉田 匡智 | 川上 竜摩 |
| 岩下 隆希 | 古賀 祐貴 | 佐伯 大地 | 高比良 湧輝 |
| 田嶋 佑亮 | | 富永 雄樹 | 松下 幸太郎 |
| | (以上 普3 C) | 道下 健斗 | 柳谷 祐兵 |
| | | 山本 慎 | 山口 慎之介 |
| | | | (以上 機3 A) |
- 1ヵ年皆勤賞
 - 総代 永尾 直弥 (普3 D)
 - 体育文化功労賞
 - 総代 武次 海斗 (普3 D)
- 〈団体の部〉
(ハンドボール部)
- | | |
|--------|-------|
| 石崎 諒 | 野口 智秀 |
| 原田 竜汰 | 渡辺 峻斗 |
| 山口 慎之介 | 三重 樹弥 |
| 田崎 優史 | 内藤 佑哉 |
| 三浦 拓巳 | 松浦 佑太 |
| 藤川 駿人 | 佐藤 快 |
| 井手 健人 | 楠 海斗 |
| 渡辺 有哉 | 尾辻 篤重 |
| 内村 元紀 | 伊藤 太一 |
| 重藤 隆有 | 山崎 裕真 |
| 松尾 健太郎 | 藤川 凌太 |
| 山田 昇平 | |
- 〈個人の部〉
(水泳部)
- | | |
|-------|-------|
| 武次 海斗 | 増山 郁弥 |
|-------|-------|
- (陸上部)
- | |
|-------|
| 濱田 和浩 |
|-------|
- (写真部)
- | |
|-------|
| 山口 皓太 |
|-------|